

日興アセットマネジメント

2006年の中国経済および中国 A 株市場の好調を予測

[東京 2005 年 12 月 13 日] 日興アセットマネジメント株式会社(取締役会長兼 CEO: ティモシー・マッカーシー、以下日興 AM)は 12 月 8 日、中国チームのリーダーで、シニア・ファンド・マネージャーである宮里啓暉と、ポートフォリオ・マネージャーの王闖による、中国経済・A 株市場セミナーを開催しました。本セミナーの中で両名は、2006 年も中国の GDP 成長率は 9.5%と引き続き好調に推移し、中国 A 株市場では健全化、流動性拡大の進展が期待されることから、2005 年を底に上昇相場が続くという見解を示しました。

宮里は 2006 年の中国経済の動向について次のように述べています。「石油価格高騰によるアメリカの景気減速の可能性を考慮しても、中国国内の内需拡大等の要因から経済成長率は 9%台を確保し、ハードランディングは起こらないと考えます。また人民元は、現在少なくとも 40%は過小評価されていますが、今後徐々に切り上げられ、2006 年は 3~5%ほどの切り上げ幅となると見込まれます」。

現在中国 A 株の IPO は低迷していますが、政府の管理下において進行中の株式市場の制度改革が来年中にも完了した暁には、IPO の件数も増加に転じると見られます。また、QFII 制度の施行により外国投資家が参入したことで、中国 A 株市場の構造調整は進み、投機的イメージを払拭した流動性の高い市場へと変化しつつあります。政府による企業統治改革の実施も、中長期保有を目的とした健全な投資を呼び込むことにつながると予測されます。

宮里と王は、中国株投資について次のような見解を述べました。「昨今、中国株投信の純資産残高が減少傾向にあるという報道も見受けられますが、現在運用されているファンドのほとんどは、非常に限られた銘柄で構成されている中国 B 株や H 株、レッドチップに投資しています。B 株、H 株及びレッドチップは中国企業の一部を代表すると言えますが、一方で、約 1,400 銘柄という圧倒的な銘柄数を誇り、多業種から構成される中国 A 株市場には、割安に放置され、今後 2~3 年の間に EPS が年 20~25%成長する可能性を秘めた企業が多く見受けられます。このような銘柄は、分散投資において欠かせない有望な投資先であり、中国 A 株市場への投資はますます増加するものと確信しています」。

セミナーには、取締役会長兼 CEO のティモシー・マッカーシーも出席し、次のように中国株の魅力を強調しました。「中国のマクロ経済を見たときには、まだまだ改善されるべき点が残っていますが、個別の銘柄の中には大きな収益性が見込まれる健全な企業が数多く見受けられます。分散投資を目指す投資家の皆様も、ポートフォリオの 3~5%ほどは中国株に振り向けることを検討されてはいかがでしょうか」。

日興 AM は、世界で初めて QFII 制度の認可を受けた資産運用会社です。この QFII 制度を利用して世界初の人民元建ての国債に投資するファンドと人民元建ての中国 A 株に投資する公募ファンドを提供した実績があります。現在運用する 3 本のファンドの基準価額はいずれも順調に推移しており、今後もボトムアップリサーチに基づいた銘柄選択により、長期的に信託財産の成長を目指してまいります。